

1. 教育の責任

管理栄養士としての使命感や役割を理解する。社会に出れば、他職種との連携が必要になり、社会人としてのコミュニケーション力を身につけることが必要となる。そのためには、基本的な知識や技術を学び、様々な問題に柔軟に対応できる力を身につけ、さらには自ら積極的に行動することにより、課題を見つけ、それを解決していく力を開発する。

「食品学総論」（講義、春学期、2単位、健康栄養学部必修科目）

「化学基礎実験」（実験、春学期、1単位、健康栄養学部必修科目）

「食品学実験」（実験、秋学期、1単位、健康栄養学部必修科目）

2. 教育の理念

STUDY FOR LIFEに基づき、豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成するという本学の教育目的をふまえ、管理栄養士としての使命や尊厳を自覚し、学習を積み重ねることにより、全ての人に最良の栄養教育を提供できるような人材を育成することを教育理念としている。

3. 教育の方法

（1）授業実践の工夫

「食品学総論」では、各項目の最後にまとめのプリントを配布し、授業での振り返りをおこなっている。また、国家試験合格のためには半期で教科書1冊を終了させる必要があるため、なるべく教科書に沿って授業を展開し、重要な箇所は教科書に直接書き込みをさせている。学生には覚える内容が多い科目であるため、身近な例を出して説明をおこなっている。

「化学基礎実験」および「食品学実験」では、班単位で実験に取り組むため、なるべく全ての学生が授業に参加しやすいように少人数での授業をおこなっている。また、講義で習った内容を実験で再確認できるような内容としている。学生により実験結果に対する理解度は大きく異なるので、何度も丁寧な説明をおこなうようには気を付けている。

（2）総合的な学修成果達成のための工夫

「食品学総論」では、上記（1）に示したように、各項目のまとめのプリントを配布して、さらには解答も配布することにより、各自、復習をおこなうように指導をしている。

「化学基礎実験」および「食品学実験」では、事前に半期分の実験内容を記したプリントを配布し、1回目の授業では半期の授業内容を説明することにより、毎回の予習をするように促している。また、実験終了後は各自レポートを作成し、授業の振り返りをおこなっている。

4. 教育の成果

（1）授業見学・授業アンケート等の内部評価

「食品学総論」では、化学が苦手な学生に対しても理解しやすいように基本的な部分も含めて説明した。そのため、今年度の学生は、授業評価に高い点数をつける学生が多く、また、よく理解できたという意見が多かった。

「化学基礎実験」では、なぜ、化学の実験をおこなうのか、また管理栄養士の仕事にどう繋がっていくのかが見えにくいと、授業の意義なども理解しにくい科目といえる。さらに化学に関する知識が少ない学生が多く、化学計算やレポートの書き方なども難しく感じ、考察の書き方がわからなかったという意見もあった。

「食品学実験」では、春学期に既に実験をおこなっていたこともあり、初めに実験操作の説明をおこない、最後に実験結果に対する説明をおこなった。実験授業の内容が講義科目である食品学総論の復習を兼ねており、内容がよく理解できたという意見が多かった。

（2）学会・研究会、高大連携、産学連携等における外部評価

昨年度行った卒業研究のデータを再度確認して結果を再構成し、健康栄養学部の研究集録へ投稿を行った。また、栄養改善学会近畿支部会の学術総会で発表を予定している。今後は学内の大原先生と共同研究という形で、さらに研究を深めていきたいと考え

ている。

5. 改善への努力と今後の目標

特に「化学基礎実験」や「食品学実験」では、最終的な結果を求めるために化学計算が多く出てくる。高校時に化学を選択していない学生が多く、化学に関する内容がわかりにくいのは仕方がないと考えており、そのため、わかっていないことを前提に授業を進めている。しかし、数年前より、計算（算数）が出来ない学生が増えているように思われ、この点に関しては、学生によりかなり差があること、また、細かく説明すると授業時間が足りなくなるため、そこまでは十分な説明をしていない。そこで、今後はこのような学生に対してはどう対処していくかは検討課題である。1年生のアドバイザーからは学修支援センターの利用を学生に勧めてくれているようで、私からも計算がわかりにくい学生へは積極的に利用するようにアドバイスをしていくつもりである。学生の質も年度ごとに変わるので難しい問題である。

【添付資料】

特になし。